

令和6年度教育懇談会 参加者の皆様からの御意見

今回の教育懇談会は、藤原和博先生が提唱する「よのなか科」形式で、自由な意見交換を行いました。参加された皆様におかれましては、様々なご意見をいただきありがとうございました。

県教育委員会としてはいただいた意見を参考にしながら、誰もがそれぞれに思い描くウェルビーイングの実現に向けて、主体的に学び、互いに多様な他者を尊重し、自分らしさを認め合い、協働しながら、夢や希望の実現に邁進することができるよう、様々な教育の取り組みを展開して参ります。

～令和6年度教育懇談会概要～

□日 時 令和6年11月11日（月）18：00～20：00

□場 所 西八代合同庁舎 2階大会議室

□出席者 31名

県教育委員 4名 県教育長 1名 県教育委員会職員 4名 一般参加の方々 22名

□テーマ 『一人一人が輝く教育 ～こどもたちのウェルビーイングの実現のために～』

○以下、参加者から挙げられた意見の紹介

子どものウェルビーイングを上げていくために家庭ではどんなことを心がけていけばいいか

- ・子どもを認めること、褒めてあげること。
- ・子どもの目を見て話を聞くこと。
- ・まずは大人がウェルビーイングを感じる必要がある。
- ・子どもと「一緒に」楽しむ姿勢が大切。
- ・子どもの進みたい人生の方向性や思いを尊重する。親が心配しすぎない。
- ・子どもと親が一緒のことで、時間や気持ちを共有する。例えば、一緒にテレビを見る、共に話すなどすることで、スマホを見ることよりも楽しい状態をつくる。
- ・「やってみろし」の精神を養うこと、そしてそれを支える親がいること。
- ・スマホの時間制限は必要ない、見ているものの内容を制限する必要があると考える。
- ・親がイライラして帰ってくる時があるが、その理由を話をしてくれると親と話ができて良いと思う。
- ・子どもに煙たがられても、親は言うべきことは伝えること。

子どものウェルビーイングを高めていくために学校は（生徒は、教師は、授業は）どんなふうに変わっていくべきか

- ・先生が子どもを認めること。友達に認められなくても先生が気にかけてくれば居場所はあると思える。
- ・個性を認めることや、異質なものに対して寛容である姿勢を大人が見せる。
- ・働き方改革で学校行事が減っているが、人間関係作りには学校行事を大切にしていけるべきである。
- ・子どもだけでなく、先生や大人が周りに認められること。誰かに認められたいのは、先生や大人も同じである。
- ・もっと学校でやることを減らすべきである。先生も子供も忙しい。余裕があれば気持ちの余裕も生まれ、それが幸福感につながる。
- ・先生が授業を楽しく行っていると生徒も聞きたい、知りたいという気持ちになる。
- ・子ども同士でコミュニケーションをとれる時間作りが必要である。
- ・子どもが地域の行事に参加できる環境を作っておくこと。
- ・個別最適な授業の推進で、子供が授業を主体的に受ける環境になることで、授業を楽しく感じることができる。
- ・自分が意見を話すことができるとともに、人の話を聞くことができる時間作り。
- ・失敗を許せる環境づくりが必要である。
- ・一方的な授業ではなく、やりとりのある授業が必要だと考える。

子どものウェルビーイングを高めていくために

①子どもは家庭や学校の外でどんな体験（経験）をしたらよいか

②そのためにどんな大人の力を借りたらよいか

- ・①子供クラブ・育成会の充実や地域に関わる行事 ②それを運営する地域の大人
- ・①子どもが地域愛を育むような体験 ②地域にある素材（ゆるキャラなど）や団体
- ・①子どもクラブのキャンプ体験（深夜まで活動するなど普段できないこと）
②地域の人たちの参加
- ・①外に出る機会を増やすこと ②より広い地域に出るため、より多くの大人の協力
- ・①地域の大人と会話する機会を増やす ②それをしっかりと聞く地域の大人たち
- ・①体験活動を増やす ②地域にコーディネーター的な役割を果たす方がいると良い
- ・①学校以外の場で子どもの視野を広める体験 ②地域の大人の積極的な参加と協力
- ・①自転車を乗り回す等冒険的なこと ②見守り、遊びに寛容な大人